

2024年9月期 第2四半期決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2024年5月16日

2024年9月期 上半期のトピック

1 売上、利益ともに過去最高を更新

2 通期業績予想を上方修正、増配

**3 2つの新事業室を設立 ～連結経営体制の強化～
(バイオフィロンティア事業室、エネルギーソリューション事業室)**

目次

- 01 2024年9月期 上半期 実績
- 02 2024年9月期 通期業績予想
- 03 SANYO VISION 2028
財務目標進捗 及び 今後の取り組み
- 04 成長への布石

01

01

2024年9月期 上半期 実績

02

2024年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028
財務目標進捗 及び 今後の取り組み

04

成長への布石

2024年9月期 上半期 連結実績

■ 通期計画進捗率：売上51.5%、営業利益72.0%と順調。営業利益率も前期比上昇

(単位：百万円)	2023年9月期	2024年9月期			
	上半期	上半期		通期	
	実績	実績	前期比	通期計画 (2023/11/7公表)	進捗率
売上高	62,154	64,928	+4.5%	126,000	51.5%
売上総利益 (売上総利益率)	10,530 (16.9%)	11,523 (17.7%)	+9.4% (+0.8ppt)		
販売費及び 一般管理費	6,738	7,205	+6.9%		
営業利益 (営業利益率)	3,791 (6.1%)	4,317 (6.6%)	+13.9% (+0.5ppt)	6,000 (4.8%)	72.0%
経常利益 (経常利益率)	3,757 (6.0%)	4,935 (7.6%)	+31.3% (+1.6ppt)	6,200 (4.9%)	79.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,521	3,146	+24.8%	4,000	78.7%
EPS(円)	87.78	109.32	-	139.03	-

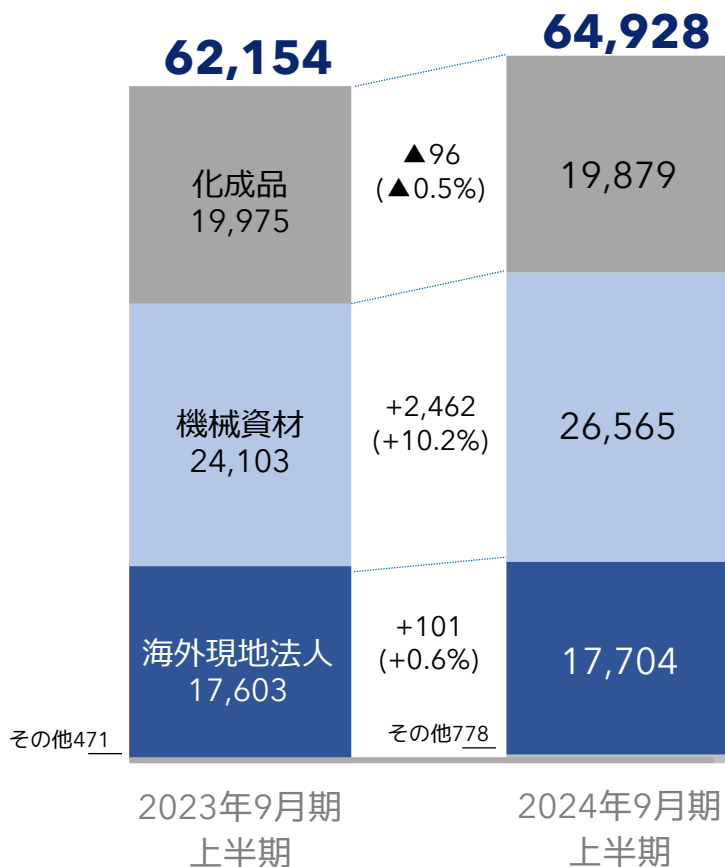
※2024年9月期より、為替を年間の平均レートで換算しています(変更前：期末日の為替レート)。それに伴い2023年9月期の実績を遡及修正しています。

セグメント別 決算サマリー

売上高 前年同期比

+27.7億円 (+4.5%)

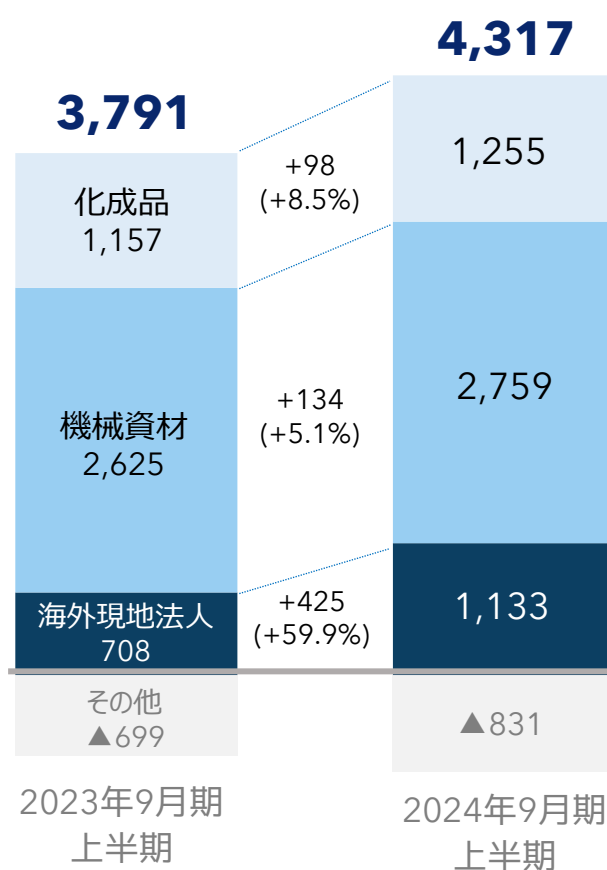
(単位：百万円)



営業利益 前年同期比

+5.3億円 (+13.9%)

(単位：百万円)



化成品

減収・増益

機械資材

増収・増益

海外現地法人

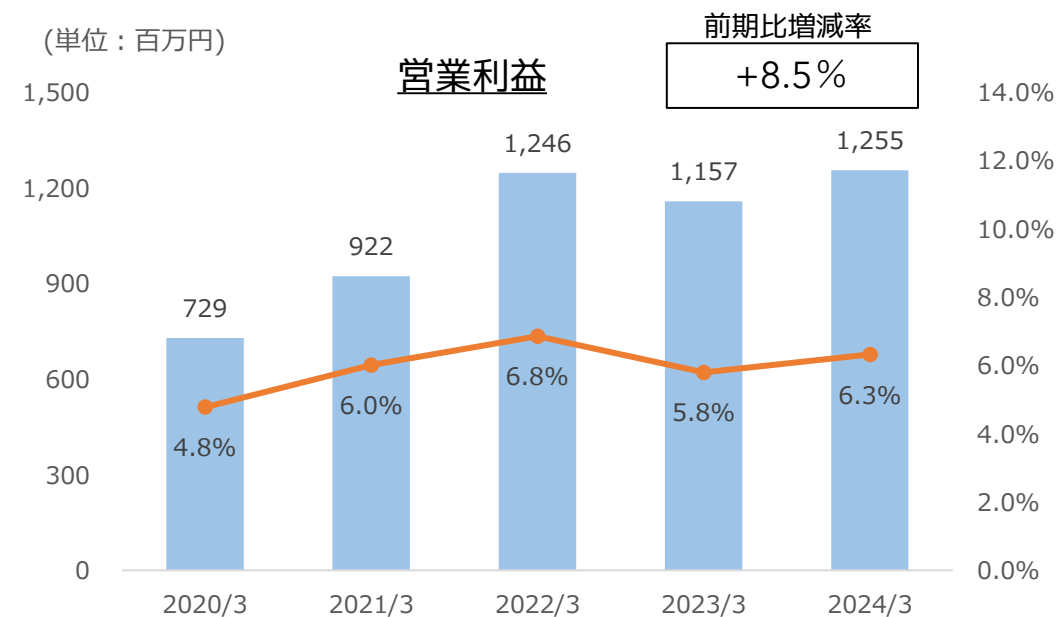
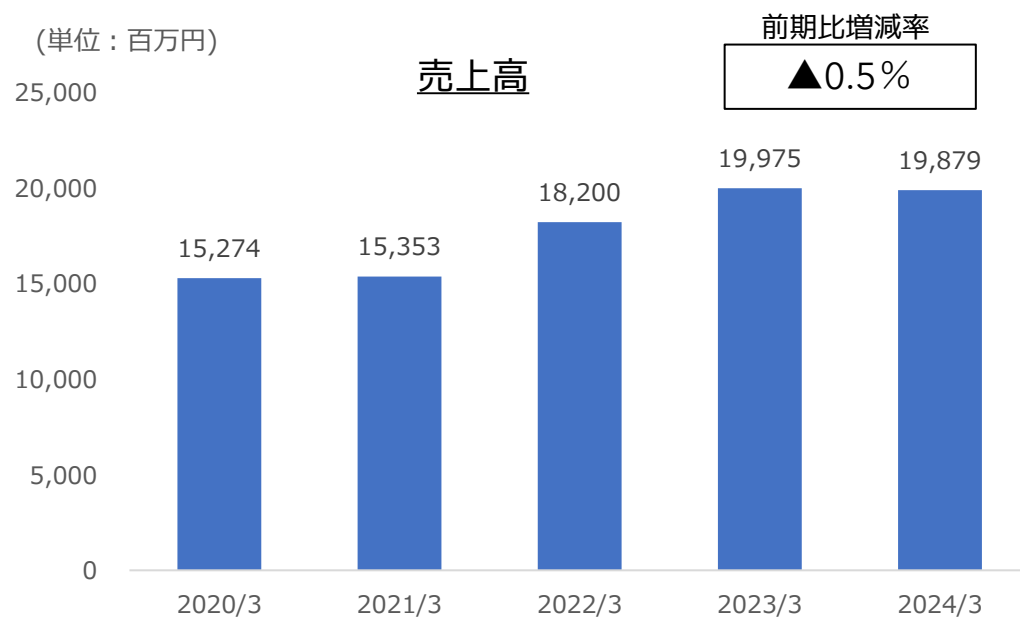
増収・増益

※2024年9月期より、為替を年間の平均レートで換算しています
(変更前：期末日の為替レート)。
それに伴い2023年9月期の実績を遡及修正しています。

化成品セグメント

【ゴム事業部、化学品事業部、ライフサイエンス事業部（マテリアルソリューション：MS）及びグループ会社】

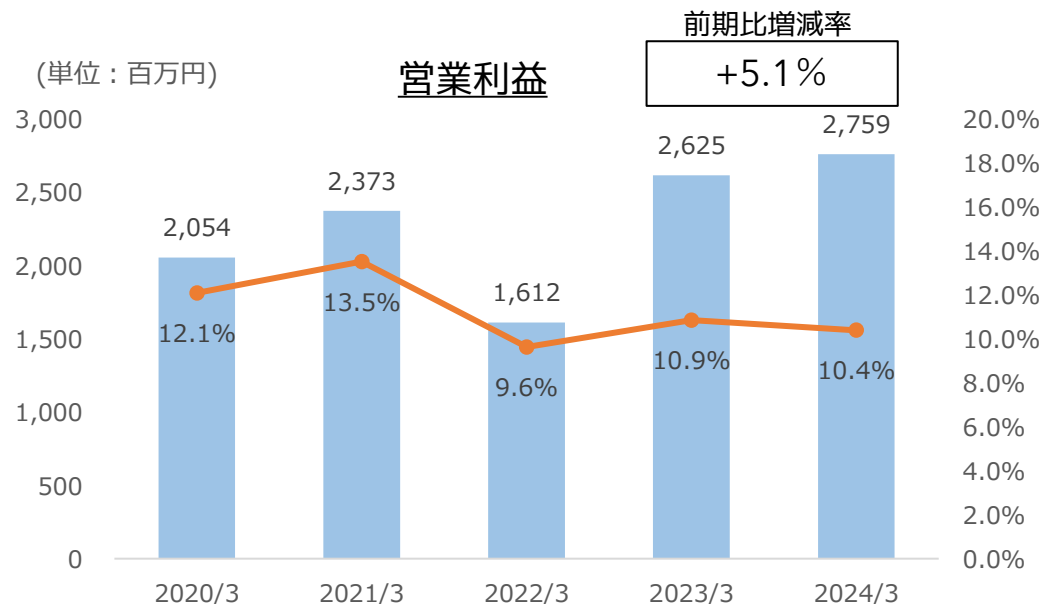
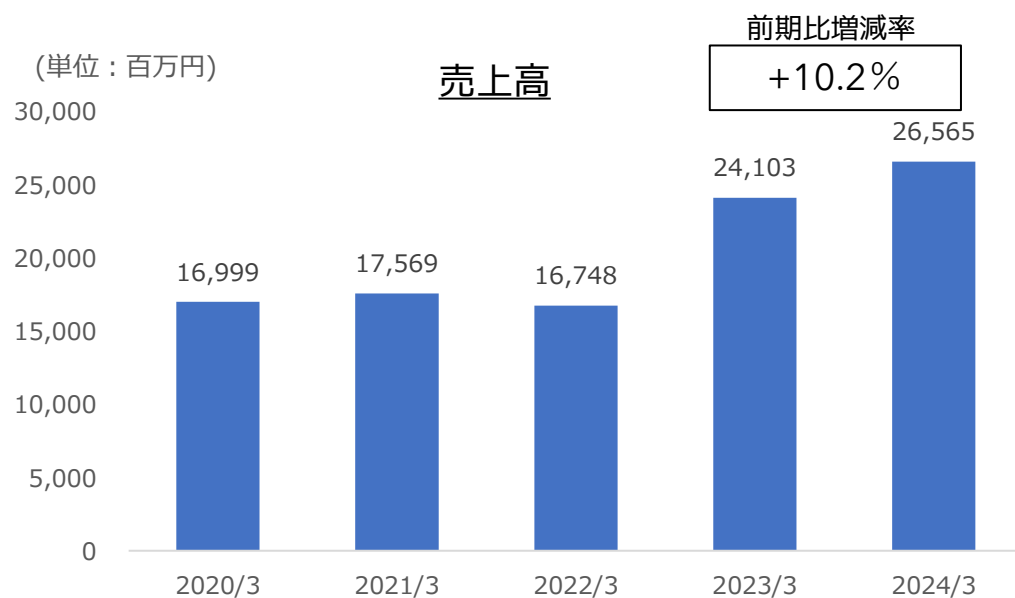
事業部	上半期の状況
ゴム	自動車の国内生産好調で原材料需要は回復基調を継続するものの、数量は前期に及ばず売上は減収。他方、高付加価値商材である副資材の販売は増加し、利益は前期比並み
化学品	主力商材の好調や新規商材取扱開始、価格見直しによる利益率の改善が進み、売上、利益ともに好調
ライフサイエンス (MS)	電材などの主力商材が好調、掘削資材での新規商売の開始もあり、売上、利益ともに堅調



機械資材セグメント

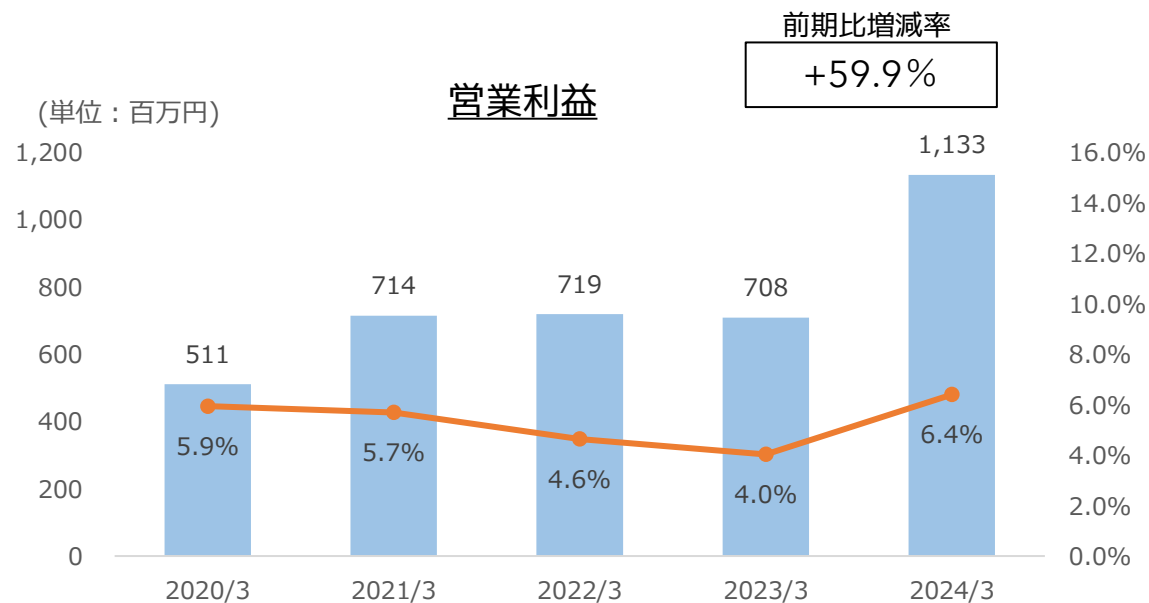
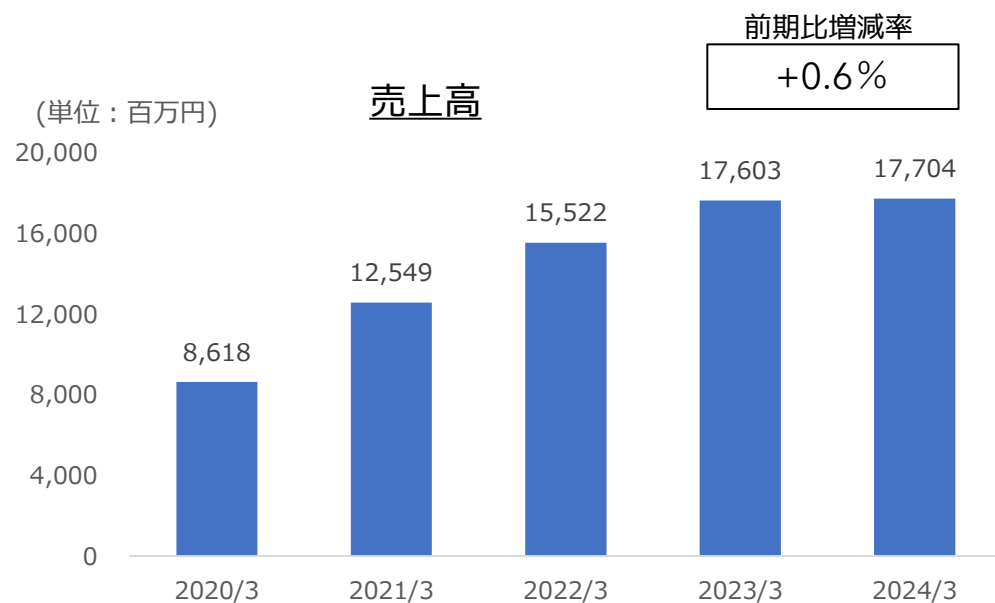
【産業資材第一/第二事業部、グリーンテクノロジー事業部、ライフサイエンス事業部（科学機器）及びグループ会社】

事業部	上半期の状況
産業資材	自動車メーカーの生産好調により売上好調も、競争環境変化が利益に影響
グリーンテクノロジー	- 飼料加工機器：本体納入が進捗し、関連消耗品販売も堅調となり、前期比で好転 - 木質バイオマス：本体案件の計上はないものの、大型案件の受注 - コスモス商事：地熱関連機材は苦戦も、石油・ガス関連機材や海洋開発分野は堅調 - ワイピーテック：主力商品の需要が弱含み、売上、利益ともに前期並み
ライフサイエンス(科学機器)	- メーカーの値上げなど販売価格高騰による受注減少や円安の影響で売上、利益ともに前期比減少 - スクラムが取扱うバイオ分野の研究支援機器は売上繁忙期を迎え、遺伝子解析関連を中心に好調



海外現地法人セグメント【アメリカ・中国・タイ・ベトナム・メキシコ・インドネシア・インド】

事業部	上半期の状況
海外現地法人	・アメリカ：高機能性樹脂の販売単価下落で減収も、フィルム関連や自動車関連の堅調で増益 ・中国：景気減速の影響を受け、業績は昨年比で低調 ・タイ：自動車部品関連が好調で利益貢献 ・その他地域：メキシコは自動車関連、ゴム関連が好調。ベトナムはゴム関連が好調のほか、掘削資材立ち上げで復調。インドネシアはゴム関連不調



※2024/3期：為替を年間の平均レートで換算しています(変更前：期末日の為替レート)。それに伴い2023/3期の実績を遡及修正しています。

02

01

2024年9月期 上半期 実績

02

2024年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028
財務目標進捗 及び 今後の取り組み

04

成長への布石

2024年9月期 業績予想

- 先行投資（事業投資、人的投資、IT投資）を進めつつ、期初予想を上回る好業績となっている状況を踏まえ、2024年9月期 **通期業績予想を上方修正**

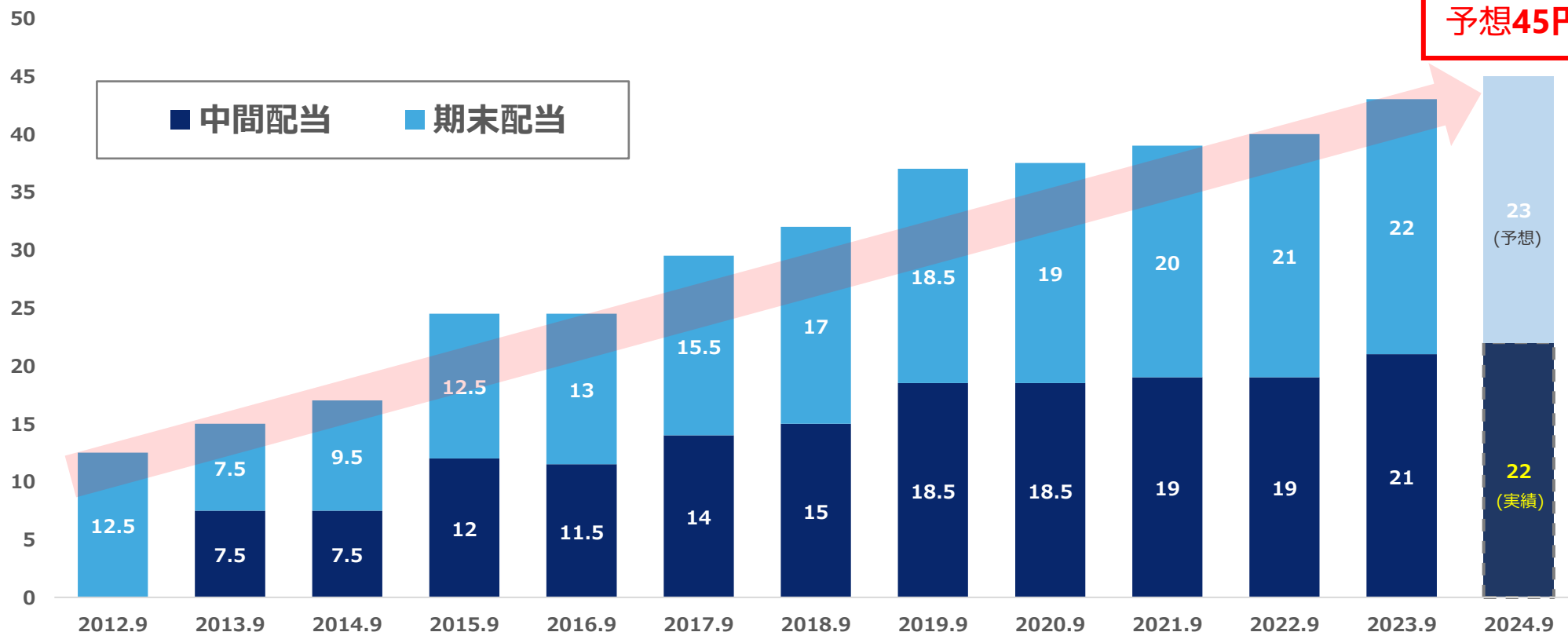
	2024年9月期				
	上半期		通期		
	実績(A)	前期比	期初計画 (2023/11/24公表)	修正計画(B) (2024/5/9公表)	進捗率 (A)/(B)
売上高	64,928	+4.5%	126,000	126,000 ※変更なし	51.5%
売上総利益 (売上総利益率)	11,523 (17.7%)	+9.4% (+0.8ppt)			
販売費及び 一般管理費	7,205	+6.9%			
営業利益 (営業利益率)	4,317 (6.6%)	+13.9% (+0.5ppt)	6,000 (4.8%)	6,800 (5.4%)	63.5%
経常利益 (経常利益率)	4,935 (7.6%)	+31.3% (+1.6ppt)	6,200 (4.9%)	7,500 (6.0%)	65.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,146	+24.8%	4,000	4,900	64.2%

株主還元について

- 期初予想を上回る上期業績と通期業績予想を踏まえ、**中間配当を21円から22円に増額**
- **年間配当予想を45円に変更**。「一株あたり配当額」の安定的増額に重点を置く方針は不変

(配当額：円)

1株当たり配当推移



年間配当
予想45円

03

01

2024年9月期 上半期 実績

02

2024年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028
財務目標進捗 及び 今後の取り組み

04

成長への布石

SANYO VISION 2028 財務目標の進捗状況

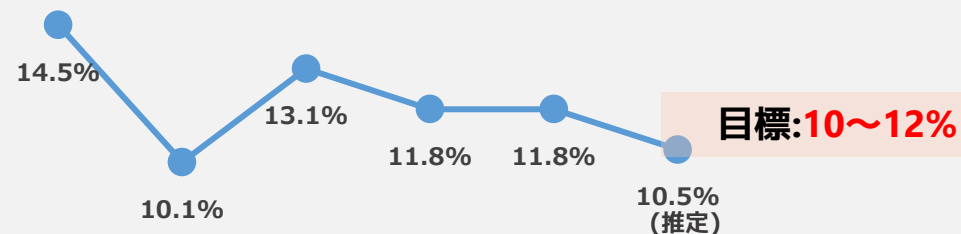
- SANYO VISION 2028で掲げた財務目標は、各項目において順調に進捗
- PBRは前期末から改善しつつも1倍を割る状況。今後の企業価値向上に努める

	目標 (2028年9月期)	結果 (2024年9月期 上半期)	評価
ROE	10～12%	10.5% ※2024年9月期予想値	○
営業利益	90億円	60 ⇒ 68億円 (期初計画) (上方修正後)	○
営業利益率	5.1%	6.6%	◎
営業CF	黒字	40億円(黒字)	○
自己資本比率	50%以上	62.3%	○
PBR	1倍超	0.89 ⇒ 0.96 (2023年9月末) (2024年3月末)	△

現状分析 ～資本コストと株価を意識した経営の実現～

- 資本コストは5～6%程度。ROEは資本コストを上回って推移
- 「SANYO VISION 2028」で掲げたROE目標は10～12%。資本コストを上回るROEの水準を継続し、ROE向上への取り組みを継続的に実施しながら、PBR > 1を目指す

ROEと資本コストの推移

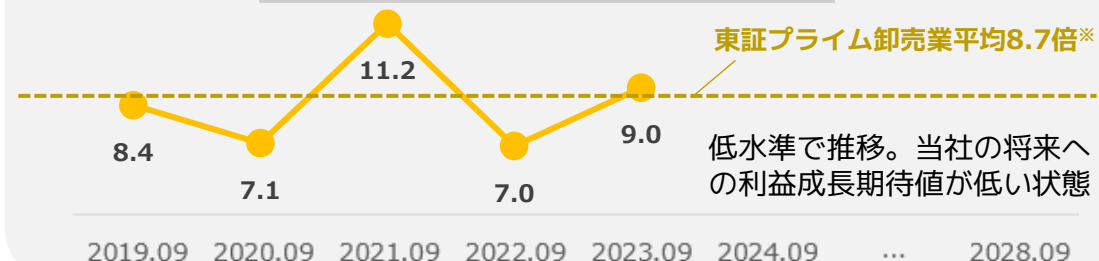


資本コスト： 5～6%程度

PBRの推移



PERの推移



※：23年3月末時点

(株主資本コストの考え方) CAPMより株主資本コストを算出

株主資本コスト

=

リスクフリーレート

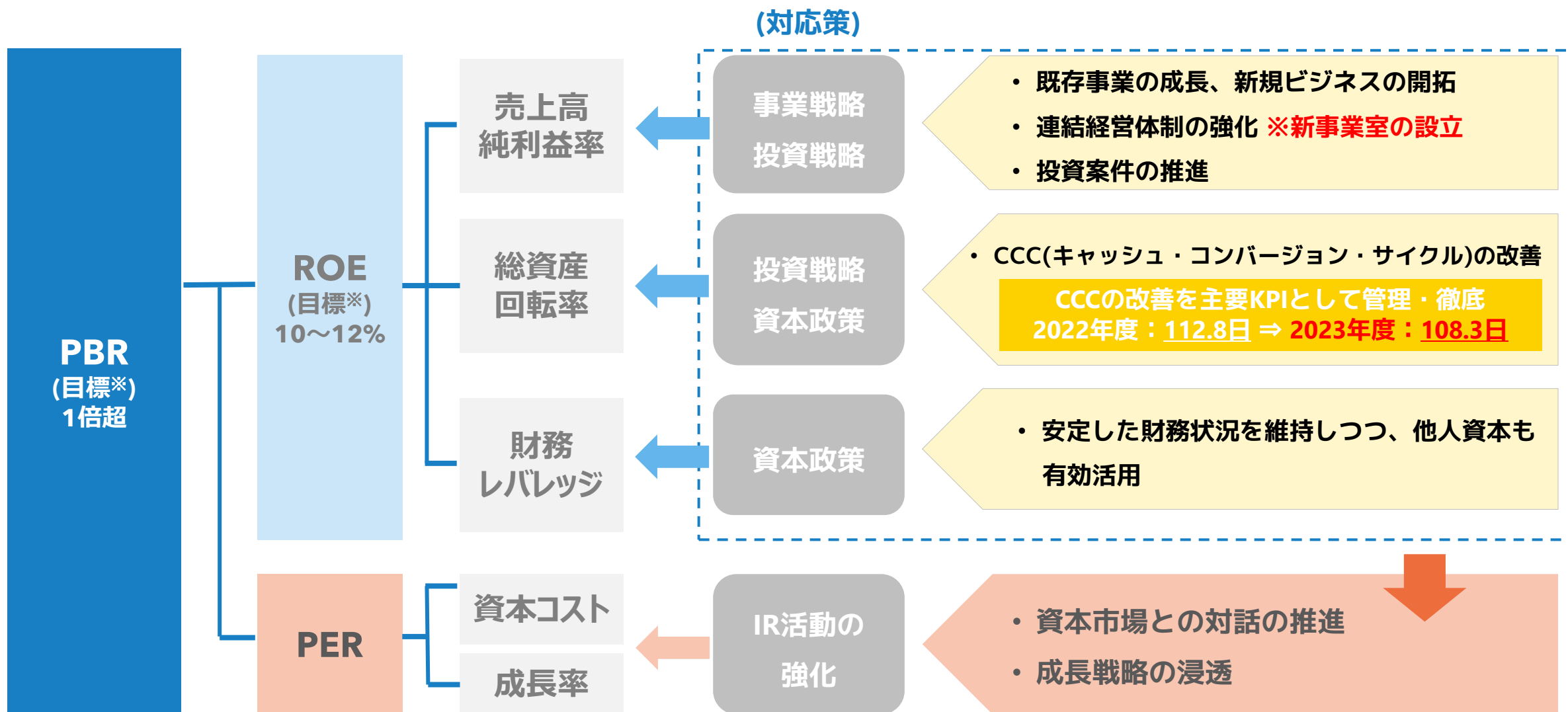
+

β

×

市場リスクプレミアム

PBR目標達成の戦略



※：「SANYO VISION 2028」で掲げた2028年9月期目標

ROEの構造分析

成長事業への投資
(潜在コア事業・M&A)

レバレッジ
有効活用

連結経営体制の強化
バリューチェーン体制の拡大

売上高純利益率
向上

Leverage

財務レバレッジ

Asset Turn

総資産回転率

Profit Margin

売上高純利益率

ROE

=

$$\frac{A}{E}$$

総資産
自己資本

×

$$\frac{T}{A}$$

売上高
総資産

×

$$\frac{R}{T}$$

純利益
売上高

(実績)
2023年
9月期

11.8%

1.6倍

1.9回転

3.9%

厚い自己資本

アセットライトな
ビジネスモデル

高付加価値商材 X サービス =
高収益率

04

01

2024年9月期 上半期 実績

02

2024年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028
財務目標進捗 及び 今後の取り組み

04

成長への布石

組織体制変更(連結経営体制の強化)

※2024年2月8日付で開示

■ 新事業室【バイオフィロンティア、エネルギーソリューション事業室】を設立

< 2024/4/1～の組織体制 >

事業部門

- ・ ゴム事業部
- ・ 化学品事業部
- ・ 産業資材第一・第二事業部
- ・ グリーンテクノロジー事業部
- ・ ライフサイエンス事業部
- ・ 戦略物流室



(新設)

- バイオフィロンティア事業室
- エネルギーソリューション事業室

【バイオフィロンティア事業室】

ライフサイエンス事業部傘下のバイオテクノロジー関連事業を行う**㈱スクラム及びKOTAIバイオテクノロジーズ㈱**を移管

【エネルギーソリューション事業室】

グリーンテクノロジー事業部傘下の資源開発関連事業を行う**コスモス商事㈱**を移管

成長を大いに期待する分野へ**当社グループとしてコミット**

本格的なグループ会社経営を推進、**連結経営体制強化による事業成長を加速**

バイオフィロンティア事業室



2024年4月1日付で(株)スクラム及び KOTAI バイオテクノロジーズ(株)をバイオフィロンティア事業室傘下に移管

「バイオ分野の新事業創出」 ～本格的な産業化と巨大な新市場が見込まれるバイオ事業の拡充～



(2022年2月)

スクラム社 当社グループ参入

～バイオ研究支援機器・試薬の販売～



KOTAI

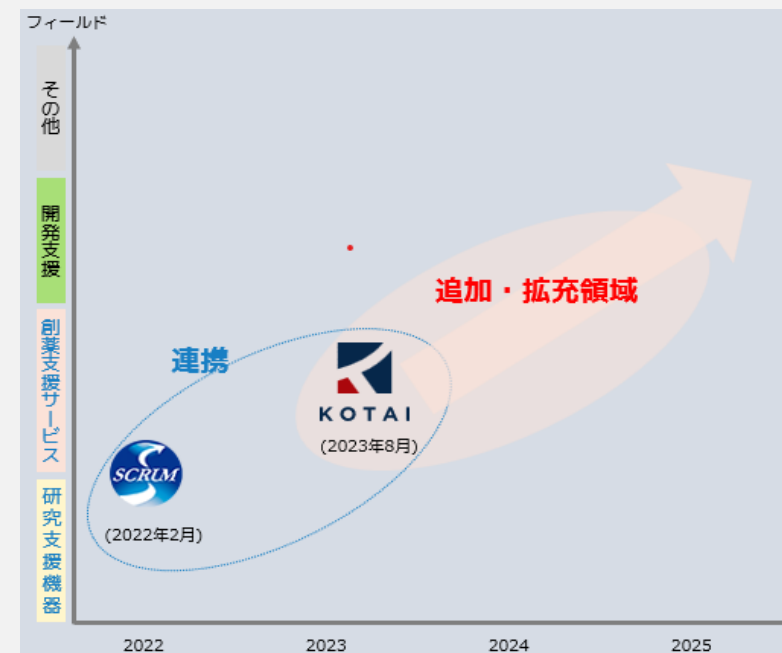
(2023年7月)

KOTAI社 当社グループ参入

～バイオ創薬支援、遺伝子解析関連サービス～

- 既存2社が技術コアとしている遺伝子解析、タンパク質機能解析分野を強靱化。異なる支援サービスへの展開を模索
- 現時点では、研究支援と医療・健康分野にフォーカス
- M&Aを含めた次なる一手で、サービスポートフォリオの追加・拡充を目指す

＜バイオ市場イメージ＞



エネルギーソリューション事業室

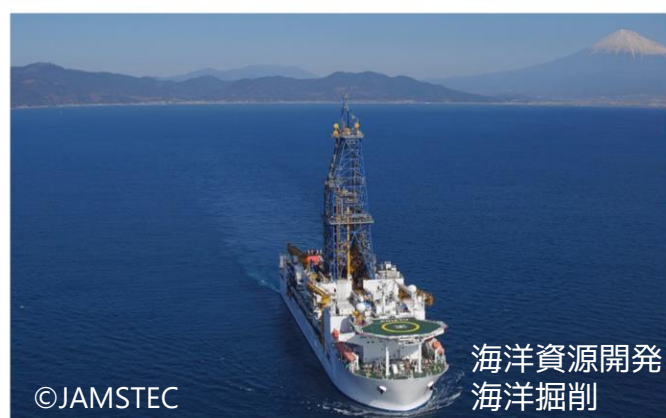


2024年4月1日付でコスモス商事を移管

「再生可能エネルギーの開発を通じ、幸福で持続可能な社会創りに貢献する」

< 海洋資源開発 >

国家プロジェクトに参画し、
深海資源生産技術の開発に寄与



採掘機材
を提供

- 地球深部探査船「ちきゅう」での調査
- レアアース等の国家PJ案件

< 洋上風力発電 >

多種多様な機器を提供し発展に貢献
今後のPJへの注力継続



資機材
を提供

- 洋上風力発電向け
- TPカバー※2の受注

< 海洋・陸上掘削 >

海洋・陸上掘削分野での経験を
最大限に活かし、**CCUS※1事業に注力**

※1 : 「Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage」の略。
分離・貯留したCO2を有効利用するもの



- 油田・ガス田・CCS※3貯留調査向け掘削機材
- 地熱発電(国も設備容量拡大を後押し)

海洋開発事業で売上の約50%を占める

※2 : Transition Piece(海底設置支柱)設置の際に、風雪・海水の流入や、作業員の落下を防ぐもの

※3 : 「Carbon dioxide Capture and Storage」の略。二酸化炭素回収・貯留技術。発電所や化学工場などから排出されたCO2を、ほかの気体から分離して集め、地中深くに貯留・圧入するもの

グリーンテクノロジー事業紹介

サステナビリティ

木質バイオマス発電

※2024年5月1日付で開示

新会社「横手湯沢フォレストサイクル株式会社」を設立

「秋田県産木材の地産地消による資源循環システムを構築」



- ・電気事業に関するノウハウ
- ・地域社会の持続的発展、課題解決



- ・林業に関するノウハウ
- ・地域森林資源の活用、整備



- ・熱電併給装置に関するノウハウ
- ・再エネ事業を通じた地域振興



- ・プラント設計-施工に関するノウハウ
- ・循環型社会の実現への貢献



共同運営

- 地域社会課題の解決に取り組み、スマート社会の実現、地域社会の持続的発展に貢献
- 秋田県産木材を燃料とする木質バイオマス発電所を建設・運営するとともに、燃料材の生産と併せて建築材を生産・販売。林業の振興と地域の活性化、脱炭素化の取り組みを推進

- 横手発電所：2024年9月着工予定 2026年6月運転開始予定
- 湯沢発電所：2024年10月着工予定 2026年10月運転開始予定

工事進行基準により、
2025年9月期から随時売上計上予定

Quest for Next

Appendix

セグメント区分

化成品

グループ会社

- ・ ゴム事業部
- ・ 化学品事業部
- ・ ライフサイエンス事業部
(マテリアルソリューション)
- ・ ケムインター
- ・ 三洋ライフマテリアル

機械資材

グループ会社

- ・ 産業資材第一事業部
- ・ 産業資材第二事業部
- ・ グリーンテクノロジー事業部
- ・ ライフサイエンス事業部
(科学機器)
- ・ バイオフロンティア事業室※
- ・ エネルギーソリューション事業室※
- ・ 日本フリーマン
- ・ ワイピーテック
- ・ 新東洋機械工業
- ・ 三洋機械工業
- ・ 日本ルフト
- ・ 三洋テクノス
- ・ スクラム
- ・ KOTAIバイオテクノロジーズ
- ・ コスモス商事

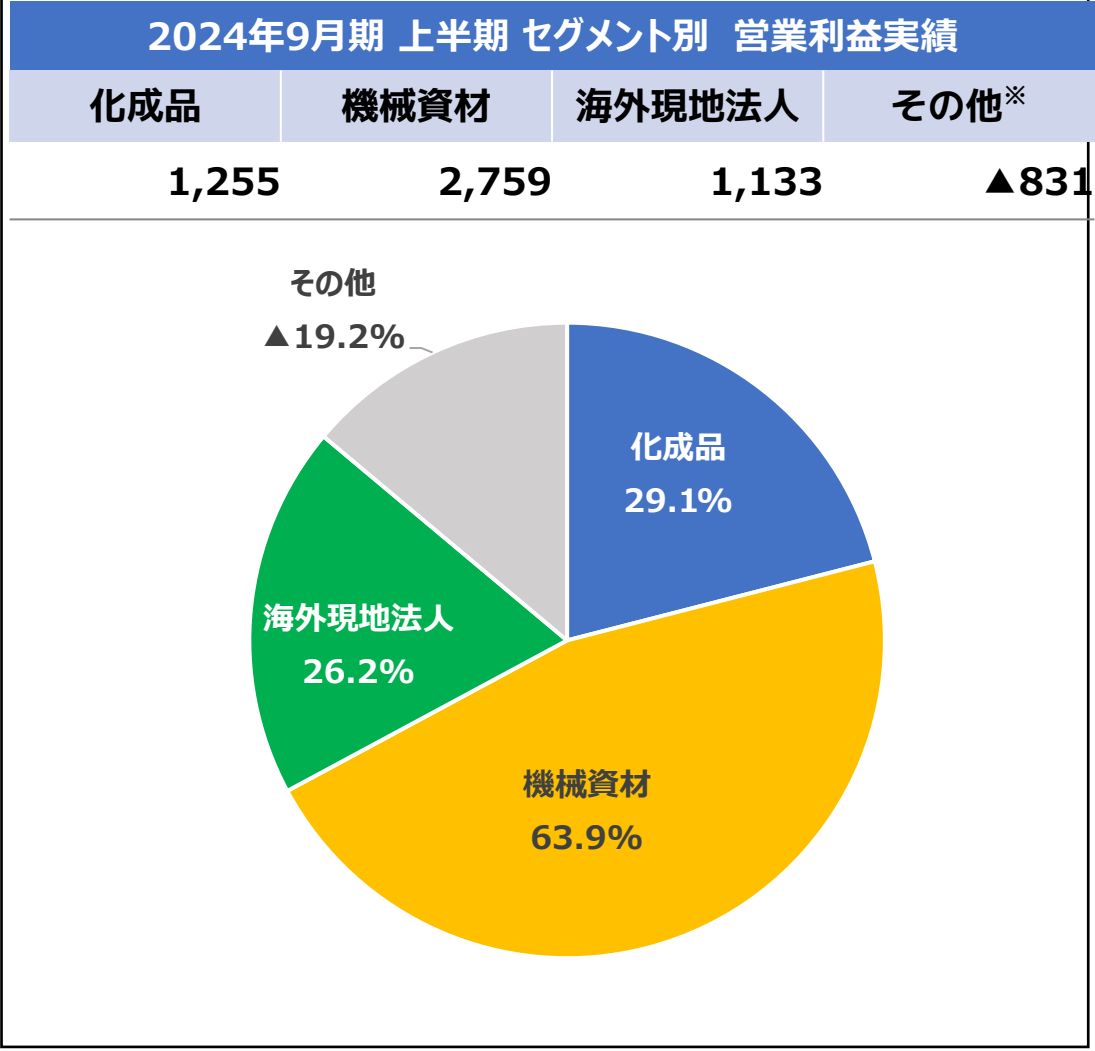
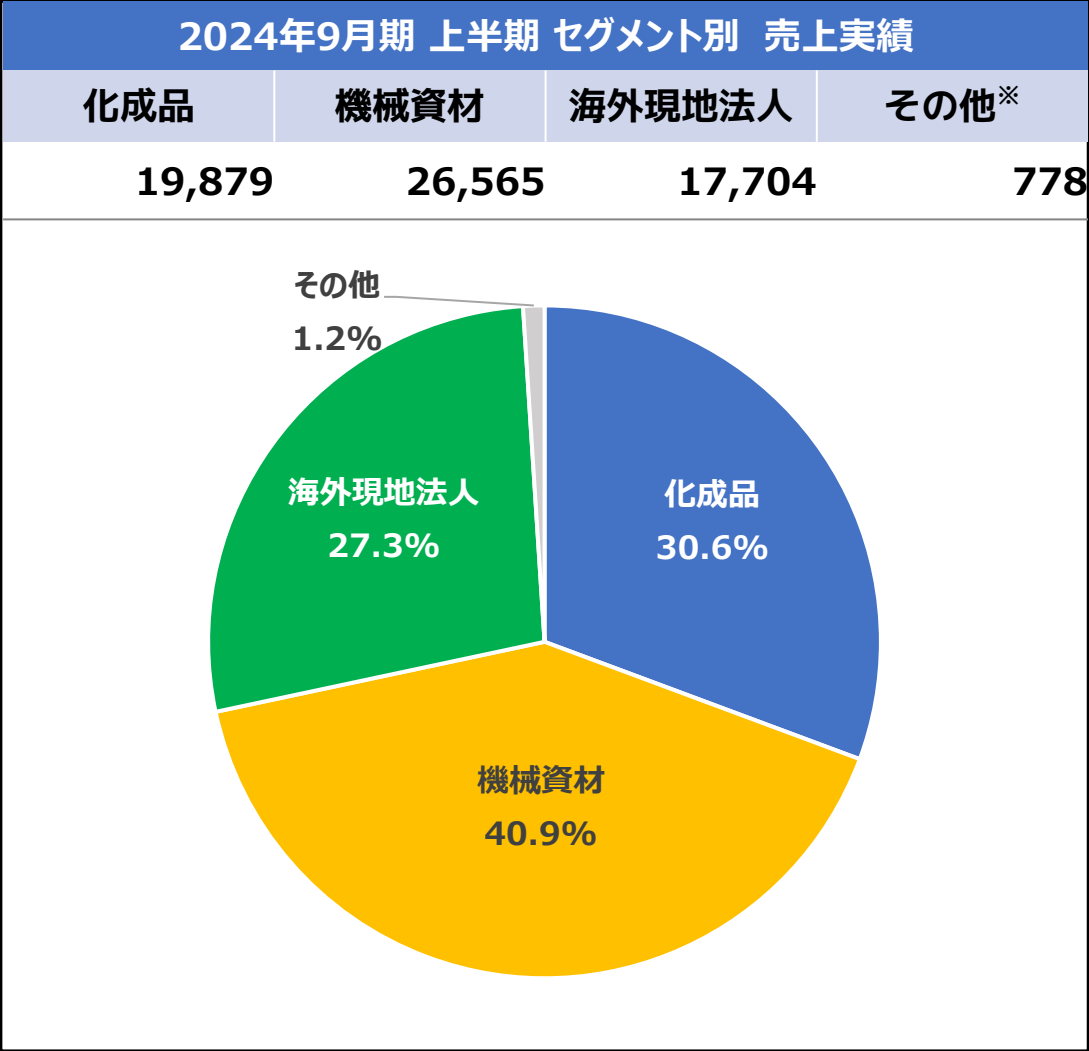
海外現地法人

- ・ SANYO CORPORATION OF AMERICA
- ・ 三洋物産貿易（上海）有限公司
- ・ SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- ・ SUN PHOENIX MEXICO, S.A. de C.V.
- ・ 三洋貿易(ベトナム)有限会社
- ・ PT. SANYO TRADING INDONESIA SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- ・ 三洋貿易インド株式会社

※2024年4月1日付でバイオフロンティア事業室、エネルギーソリューション事業室を新設
※コスモ・コンピューティングシステム社は報告セグメントに含まれない「その他」に含まれます

事業ポートフォリオ

単位：百万円



※「その他」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コスモ・コンピューティングシステム社を含む情報システム事業及び不動産賃貸業等を含んでいます。
 ※決算短信の記載と合わせ、調整額を含む数値を記載しています。

競合他社との差別化要因

市場	事業部	競合プレイヤー	差別化要因
ファインケミカル	ゴム事業部	国内合成ゴムメーカー	・ アランセオ社をはじめ世界一流合成ゴムサプライヤーとの取引 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 国内/海外日系への共通在庫販売機能
	化学品事業部	化学系商社・メーカー	・ 高付加価値商品を扱う技術系営業部員の専門知識と技術営業力 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 新規商材(環境配慮型商材等)の開発・獲得に注力
モビリティ	産業資材第一事業部 産業資材第二事業部	国内外自動車部品メーカー	・ 部品レベルでの一気通貫型のビジネスを展開 ・ 日本品質にカスタマイズした海外の商材の取扱い ・ 自動車内装部材の新ニーズへの対応
サステナビリティ	グリーンテクノロジー事業部	木質ガス化熱電併給装置メーカー	・ 飼料用CPM社製ペレットミルのシェアは圧倒的シェア ・ 機器の販売、プラントの設計・施工からアフターサービスまでの一貫対応
	エネルギーソリューション事業室※	資源開発系商社・メーカー	・ 資源エネルギー開発のフロントランナーとして高品質の製品・技術の追求 ・ 多種多様な機器ラインナップ取り揃えによる幅広い顧客ニーズへの対応
ライフサイエンス	ライフサイエンス事業部 (マテリアルソリューション部)	輸出：国内外メーカー、日系商社 輸入：化学系商社	・ マーケットインに根差したグローバルでの商材発掘力 ・ 企業・大学との共同研究による新規商材開発
	ライフサイエンス事業部 (科学機器部)	国内科学機器メーカー 科学機器商社	・ 海外の機器を販売からアフターサービスまで一貫対応
	バイオフィロンティア事業室※	国内バイオ関連商社・メーカー	・ 積極的なM&Aによるバイオ関連ビジネスの拡大 ・ 遺伝子解析サービス事業の拡充 ・ 新しい研究支援機器ニーズへの対応

※2024年4月1日付でバイオフィロンティア事業室、エネルギーソリューション事業室を新設

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2023年9月期4Q (2023.9末)	2024年9月期2Q (2024.3末)
現金・預金	7,031	9,336
受取手形・売掛金等	24,794	27,466
棚卸資産	23,429	22,914
その他流動資産	2,033	2,752
有形固定資産	3,238	3,226
その他固定資産	8,010	9,084
資産合計	68,537	74,780

負債の部	2023年9月期4Q (2023.9末)	2024年9月期2Q (2024.3末)
支払手形・買掛金	11,838	12,260
短期借入金	5,381	5,140
その他流動負債	5,441	8,215
長期借入金	333	150
その他固定負債	1,651	1,958
純資産	43,890	47,055
負債純資産合計	68,537	74,780

【ポイント】

- ・ 運転資金増加、その他固定資産増加を利益及び借入で賄う

	2023年9月期4Q (2023.9末)	2024年9月期2Q (2024.3末)
有利子負債比率	13.2%	11.4%
自己資本比率	63.4%	62.3%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1: リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

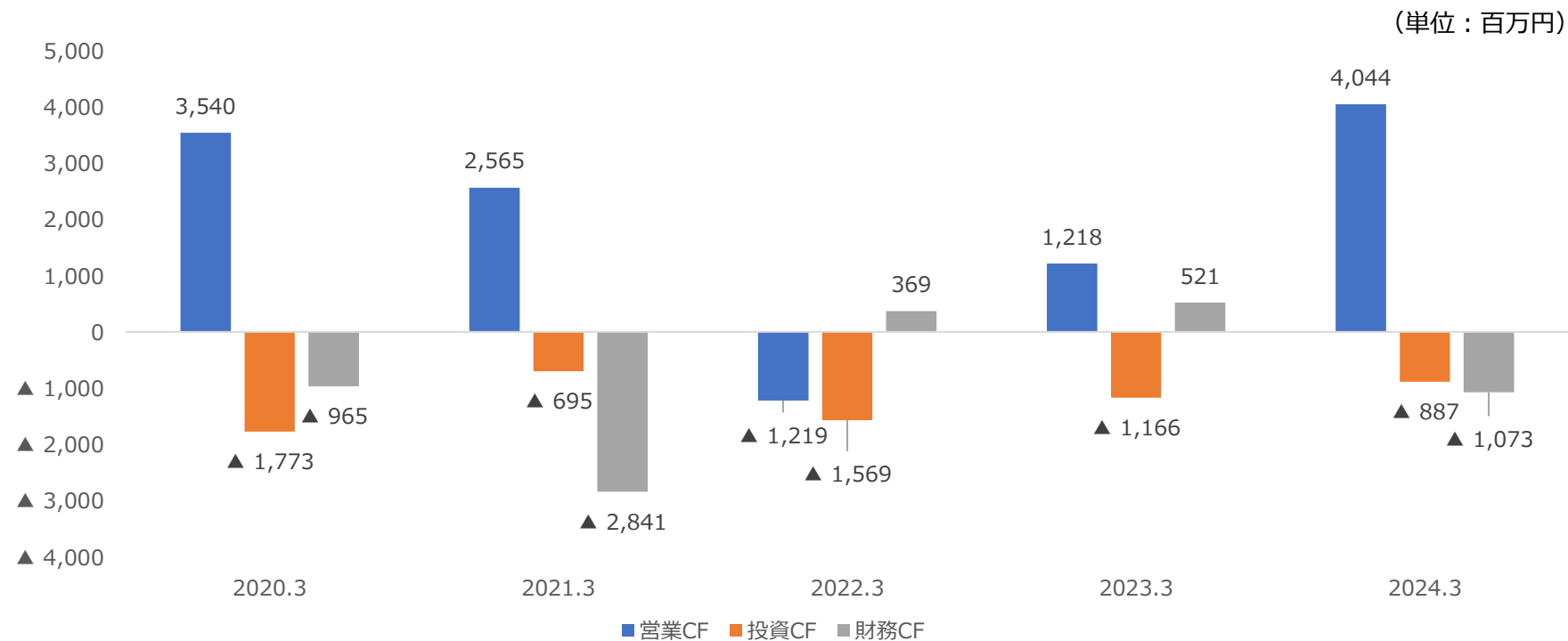
(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字継続

投資CF：定期預金の預入や固定資産の取得による支出

財務CF：配当金の支払や短期借入金の返済



	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3
営業CF+投資CF+財務CF	802	▲970	▲2,419	573	2,082
現金及び現金同等物の残高	5,395	9,648	6,605	6,218	8,895

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 執行役員 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。